



NNA (THAILAND) CO., LTD.

23/61 Sorachai Building 18 Floor, Sukhumvit 63 Road, North Klongtan, Wattana, Bangkok, 10110 Thailand
Tel : 02-392-0475 Fax : 02-392-0479 E-mail : sales_th@nna.asia

MCI (P) 033/03/2018

官・学・病院で地域包括ケア 佐久市のノウハウ、介護に生かす

介護福祉士や介護保険制度が未整備のタイで、自治体と大学、病院が一体となり、在宅の高齢者を見守ろうという「町ぐるみ高齢者ケア・包括プロジェクト」が、東部チョンブリ県サンスク町で進められている。地域医療の先進地、長野県佐久市が提携し、そのノウハウを教える試み。現場では、ほとんど手弁当で高齢者宅を回るヘルスポランティア（HV）たちが活躍し、タイ国内の他の自治体からも注目されている。

タイ高齢化 の諸相



ドゥアンチャイさん（右）宅を訪れ、リハビリの進展具合をチェックする佐久市の訪問団メンバーら＝10月、チョンブリ県（NNA撮影）

「いまから、ラーメンを食べに行こう」。住宅街の一角にあるドゥアンチャイさん（66歳）宅に、看護師やHVたちが訪れた。東田吉子・佐久大学看護学部教授ら佐久市から来た訪問団が随行する。

ドゥアンチャイさんは昨年、脳卒中で半身不随となった。昨年9月、訪問団が初めて訪れた時は、退院3カ月で寝たきり状態。一緒に暮らす娘は勤めがあり、不在中は1人で、おむつも換えられず、苦しんでいた。

しかし、訪問団は「リハビリをすれば良くなる可能性が高い」と判断。HVにリハビリの仕方を教えた。HVたちの訪問介護で、症状は徐々に回復。手すりにつかま

り立ち上がることもできるようになった。「次は何がしたいか」と聞くと「好物のタイ式ラーメンをもう一度、食べてみたい」。そこで、この日みなで連れ出すことにした。

ドゥアンチャイさんを車椅子に乗せ、自動車に運んで乗せ、店に着いたらまた車椅子に下ろす。力仕事をこなすボランティアの協力で、店のテーブルに着いたドゥアンチャイさんは、不自由さが残る手で、かみしめるようにラーメンを食べた。

自宅に戻ると、壁に取り付けた鉄棒を握りながら、足を屈伸させるリハビリを始める。

訪問団の一員で、鹿教湯病院（長野県上田市）の理学療法士（PT）丸山陽一さんがチェックする。「下肢は柔軟だが、股関節が硬い」。股関節を伸ばす運動をするよう、看護師やHVに指導した。

佐久とサンスクの高齢社会比較

| | 佐久市 | サンスク町 |
|-----------|---|---|
| 人口 | 9万8,953人 | 4万5,065人 |
| 高齢化率 | 29.2% (65歳以上) | 14.3% (60歳以上) |
| 平均寿命 | 男81.7歳、女88.0歳 | 男71.2歳、女80.8歳 |
| 保健医療施設 | 病院7、保健センター4 | 病院1、保健センター2 |
| | ・介護老人保健施設 5 | ・公立介護老人保健施設なし |
| | ・通所介護事業所 64 | ・デイケアセンターを建設中 |
| | ・特別養護老人ホーム 8 | ・国立プラパ大学付属病院に13床のプライベート高齢者病棟を設置 |
| | ・訪問看護事業所 13 | |
| 訪問医療に携わる人 | 他職種連携チーム(医師、歯科医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、栄養士、ケアマネジャー、介護福祉士) | 行政の看護師、地域のHV、プラパ大学・付属病院のPT、私立病院の医師、看護師、PTなど |

出所：盤谷日本人商工会議所所報（2018年4月）中の東田教授らの報告書。人口、高齢化率、平均寿命は2010～17年とばらつきがある。

大学交流から自治体の提携に

このプロジェクトの誕生は、3年前にさかのぼる。も

<休刊のお知らせ> 10日(月)は憲法記念日のため、The Daily NNAタイ版は休刊します。ご了承下さい。

とも佐久大学とサンスク町にある国立ブラパ大学は、教授同士の人脈がきっかけで 2014 年に学術交流協定を結び、佐久大看護学部の学生をブラパ大看護学部に、毎年 10 日間の看護実習に派遣していた。内容は、タイの訪問看護の現場や病院、身寄りのない高齢者向け施設の訪問など。その指導教官として随行していた東田教授は「サンスクも日本と同様、寝たきりの人が多い」と感じたという。

適切にリハビリすれば回復が可能な人も、放置されると一生寝たきりになってしまう。佐久市では、行政と大学、病院（佐久総合病院、市立国保浅間総合病院）が一体となり、高齢者に対する地域包括ケア体制を構築している。医師、看護師、理学療法士、歯科衛生士、保健師、市役所職員など、多くの職種が連携するノウハウを、サンスクで生かせないか。国際協力機構（JICA）の草の根技術協力（地域活性化特別枠）事業に申請して認められ、16 年 1 月から 3 年間のプロジェクトがスタートした。

プロジェクトでは、サンスク町に町長や警察、大学、病院、町の看護師やHVのリーダーからなる「高齢者保健医療・介護推進委員会」を設置し、高齢者ケアに関する政策を提言する。また、町や病院から派遣される看護師やHVが高齢者を訪問介護する。

年に数回、佐久から看護師や理学療法士などで構成する訪問団が来て、プロジェクトの進具合をチェックする。並行して、看護師やHVの地区代表を佐久に呼び、介護やリハビリの実践指導、食事の栄養知識、口腔ケア、認知症対策となる脳トレーニングなどを研修する。

これまでの 3 年間で、町内 26 地区の代表はすべて研修を終え、帰国後、学んだ内容を同僚に伝えている。ケアの記録を取る習慣もついた。

ブラパ大学のポンチャイ看護学部長は「地位の高い人が視察に出て帰国後は何もしないというパターンを避け、現場の担い手であるHVを佐久へ研修に出したことが、プロジェクト成功の原因」と指摘する。

タイと日本の介護人員の比較

| | 日本 | タイ |
|-------|------------|---------|
| 人口 | 1億2,645万人 | 6,918万人 |
| 看護師 | 121万665人 | 16万932人 |
| 介護福祉士 | 149万4,460人 | 資格制度なし |
| 理学療法士 | 10万6,911人 | 4,455人 |

出所：総務省(2018年)、日本看護協会(16年)、厚生労働省(16年)、日本理学療法士協会(18年)、World Population Review(18年推定)、タイ保健省(17年)

タイ進出を計画の企業も参加

プロジェクトには、企業も注目している。日本で介護施設を運営し、タイへの進出を検討しているエフビー介護サービス（佐久市）は、プロジェクトの訪問団に加わってサンスクの現場を訪れた。「タイでも 1 人暮らしの高齢者が増え、入所施設の需要が高いことが分かった」（臼田隆洋・海外事業推進部係長）という。

プロジェクトの第 1 期は 12 月に終わる。東田教授らは、第 2 期も JICA 事業として継続すべく、申請書を出した。今後の重点目標について、東田教授は言う。「タイではまだ『すべてをしてくれる看護師やHVが良い人』という考え方が強い。高齢者の残存機能を生かした『待つ介助』『見守る介助』の大切さを、住民に浸透させたい」。脳卒中を減らすため、その原因となる生活習慣

病の防止にも取り組みたいと言い、JICA による採用を心待ちにしている。

「多くの自治体が見学に来る」



「今後も高齢者対策を進める」と述べたナロンチャイ町長＝10月、チョンブリ県（NNA撮影）

サンスク町のナロンチャイ町長に、「町ぐるみ高齢者ケア・包括プロジェクト」について聞いた。

——町が高齢者ケアに力を入れたきっかけは？

町長になって仕事柄、多くの人々の葬式に出るうち、数カ月前まで元気だった人が糖尿病や脳卒中、心臓発作など、特定の病気で亡くなることに気づいた。それで、実態を見ようと高齢者

宅の訪問を始めた。多くの人は貧しく、何の医療も受けていなかった。高齢者を健康にする必要があると考え、役場で対策の協議を始めた。

——その後の成果は。

市民に対する健康教育が必要だったので、ブラパ大学に支援を求めた。大学側も、研究の実践にコミュニティを必要としていた。こうして、コミュニティと行政、医学の協力体制ができあがった。



ゴムを使って腕の筋肉を鍛える器具を作ったHVたち＝10月、チョンブリ県（NNA撮影）

——予算などの制約もあると思うが、今後も続けられるか。

続けねばならない。中央政府の理解がもう少し進めばよいと思うが、私立病院が医師を派遣してくれるなど、いろいろな組織が協力してくれるようになった。他の自治体や中央政府から、多くの見学者が来ている。なぜこんな小さな町が JICA などの支援を得られるのか、興味があるようだ。行政、大学、コミュニティなど多く

の組織が関わるやり方を、モデルともしたいようだ。町ではチョンブリ県で初のデイケアセンターを建設中で、来年7月に完成予定だ。(沢木範久)

<解説>

ヘルスポランティア(HV) プロジェクトを支える柱は、タイ語の略称で「オーソーモー」と呼ばれるHV。公的な介護士制度がないタイで、高齢者のケアのほか、子どもの世話から蚊の駆除、狂犬病やデング熱の予防に関する啓蒙活動など、幅広く引き受ける。日本の民生委員にあたる存在だ。サンスクには約300人がHVに登録しているが、活動しているのは15%ほど。1人のHVが2~12人の高

齢者を受け持ち、平均して週に1~2度、各人宅を訪れる。シャワーの世話、血圧や血糖値の測定、おむつ換え、散髪、リハビリ補助などをする。

報酬は全国一律で月600バーツ(約2,000円)。かつては無給だった。自分のバイクで回るため、ガソリン代などを考えると、ほとんど手弁当なのに、なぜ参加するのか。

HV歴5年のヌーチャナーさん(女性、53歳)は「人助けが好きで、参加した。人生最後の時を迎えている人たちを、勇気づけたい」。チャムルンさん(男性、59歳)は「退職して2年間を無為に過ごした。意義あることをしたかった」と話した。

NEWS HEADLINES

Table with 2 columns: News Category and Page Number. Includes sections like Economic, Social, Asia Information, and Market Information.

PHOTO NEWS



スワンナプーム国際空港の近くに正式にオープンした自転車専用レーン=タイ(ネーション提供)

TAKE OFF

インドを訪問した際に路上で気になるのは、名物とも言えるオートリキシャ(三輪タクシー)ではなく、スズキの代表車種「ワゴンR」。日本で見慣れたはずのシルエットなのに、何かが違う。先月、スズキがパキスタンで日本規格の軽自動車生産を開始すると、海外では税優遇を受けられる軽の規格は存在しない。そのため、日本の軽モデルはアジアで、排気量の大きなエンジンを搭載するなどの改良が施されるケースも多い。現行のインド版ワゴンRは、現地スタンプも参加して車体のデザインを変更。見て感じる違和感は、全長を延ばす時にフロントノーズも長くなったためだ。道で見かけると「そっくりさん」のような印象で、「ワゴンRのフリしてるけど、自分み入りたい誰やねん」と突っ込みを入れたくなる。愛きょうのある感じに、つい目が行ってしまう。(竹)

Advertisement for MakMax tent and canopy services. Includes images of a tent and a canopy, and contact information for Thai Taiyo Tent Co., Ltd.